

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和元年6月1日※1  
(前回公表年月日:平成30年6月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
山形医療技術専門学校	平成7年1月4日	梶原賢	〒990-2352 山形県山形市大字前明石字水下367番地 (電話) 023-645-1123																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人諏訪学園	昭和55年12月1日	澤村禎三	〒990-0033 山形県山形市諏訪町1丁目1番13号 (電話) 023-642-1249																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	作業療法学科		-	平成17年文部科学省 告示第170号																						
学科の目的	「こころ」と「からだ」のリハビリテーションである作業療法において臨床の現場で通用する医学知識と技術を備えた人間性豊かな作業療法士の養成を目的とする。																										
認定年月日	平成26年4月1日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	昼間	3645時間 107単位	62単位	12単位	30単位	-	3単位																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	158人	-	7人	23人	30人																						
学期制度	■前期:4月1日から9月30日まで ■後期:10月1日から3月31日まで		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験の結果及び平常成績を総合判定する。 優・・・80点以上 良・・・70点～80点 可・・・60点～70点 不可・・・60点未満																							
長期休み	■学年始め:4月1日から4月7日まで ■夏季:7月25日から8月31日まで ■期末:9月26日から9月30日まで ■冬季:12月25日から1月7日まで ■学年末:3月25日から3月31日まで		卒業・進級条件	卒業:全科目単位取得していること。 卒業試験に合格していること。 進級:全科目単位取得していること。 各科目の総合判定で以上を合格とする。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導体制として、個人面談や保護者を交えた三者面談を実施。カウンセリングの実施。		課外活動	■課外活動の種類 自治会活動(スポーツ大会、花笠まつり参加等) ボランティア活動  ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 病院、クリニック、介護老人保健施設等 ■就職指導内容 就職ガイダンスの実施、担任教員による進路面談の実施  ■卒業生数 : 36 人 ■就職希望者数 : 36 人 ■就職者数 : 36 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他  (平成30年度卒業者に関する 令和元年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>作業療法士</td><td>②</td><td>36人</td><td>34人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 無し				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	作業療法士	②	36人	34人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
作業療法士	②	36人	34人																								

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 7名 ■中退率 4.2 %  平成30年4月1日時点において、在学者165名(平成30年4月1日入学者を含む)  平成31年3月31日時点において、在学者158名(平成31年3月31日卒業者を含む)  ■中途退学の主な理由  進路変更、学業不振</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組  担任による個人面談、保護者を含めた三者面談、教員間の連携による成績不振者の個人指導、週一回のスクールカウンセラーによるカウンセリングの実施。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象  ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構  有効期間 2019年4月1日～2024年3月31日</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p><a href="http://www.ymisn.ac.jp/ot.html">http://www.ymisn.ac.jp/ot.html</a></p>

## 授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法学科)平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			社会学	社会学の基本的な考え方を理解し、人びとが経験するライフイベントにそって、その背後にある現代社会の特質と社会のしくみについて学ぶ。	1 前期	30	2	○			○			○		
○			心理学	人の心理について発達、性格、知能などの要素の基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。また、作業療法士として医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者のこころを推察し、適切な配慮ができるよう学ぶ。	1 前期	30	2	○			○				○	
○			情報処理学	作業療法業務に用いるパソコン理論、ワード・エクセル・パワーポイントの活用法について学ぶ。	1 通期	60	2	△	○		○				○	
○			文章構成法	レポートや論文等を作成するための基本的な日本語に関する文法や、文章作成の工夫、口語体や文語体の違い、正しい助詞や助動詞の使い方等を学ぶ。また日常生活における手紙などを題材として、実際に文章を作成しながら正しい日本語について学ぶ。	1 前期	30	2	○			○				○	
○			保健体育	様々な運動やスポーツの実践を通し、健康に関する知識や理解を深め、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を学ぶ。	1 通期	60	2	△		○	△	○			○	
○			総合英語Ⅰ	リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの英語の四技能をバランスよく使いながら英語の基礎を学ぶ。仕事で英語を使うことをイメージして英語表現や文法事項、アメリカの文化についても学修する。各ユニットの三つのミッションを目指して学修する。各ユニットを二回の授業で進める。ユニット終了後の小テストを行う。	1 前期	30	2	○			○				○	
○			総合英語Ⅱ	リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの英語の四技能をバランスよく使いながら英語の基礎を学ぶ。仕事で英語を使うことをイメージして英語表現や文法事項、アメリカの文化についても学修する。各ユニットの三つのミッションを目指して学修する。各ユニットを二回の授業で進める。ユニット終了後の小テストを行う。	1 後期	30	2	○			○				○	
○			運動機能解剖学	骨・靭帯・関節・筋など、運動器の構造や機能について学ぶ。	1 通期	60	2	○			○			○	○	
○			神経解剖学	神経・脈管系に関する解剖を学ぶ。	1 後期	30	1	○			○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			内臓解剖学	循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、生殖器系の解剖学的構造について学ぶ。	1 前期	30	1	○			○		○	○	
○			体表解剖学演習	骨、筋、腱、神経、血管などの触診の具体的な方法について実技を行いながら学ぶ。	1 後期	45	1		△	○	○			○	
○			解剖学見学実習	人体の基本構造を理解するために、実際に骨・筋の形態や配置、血管・末梢神経の走行、脳・脊髄の構造、内臓の位置関係などについて観察し、スケッチを行いながら三次元的に理解する。 生命の尊厳を重んじ、医療従事者としての自覚を養う。	1 後期	45	1		△	○		○	○		
○			動物生理学	人体の神経系、筋系、感覚系の基本的な生理学的機能について学ぶ。	1 通期	60	2	○			○			○	
○			植物生理学	生理学の中でも特に循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌等の構造と機能について学ぶ。	1 後期	30	1	○			○			○	
○			生理学実習	生理学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学ぶ。	1 後期	45	1			○	○			○	
○			運動学Ⅰ	解剖学・生理学の知識を基盤に、人体の運動の特徴について学ぶ。	1 後期	60	2	○			○			○	
○			運動学Ⅱ	人体の機能・運動について主に力学的視点から、この原理、姿勢のメカニズムを学ぶ。また、歩行、体力と運動処方、運動学習についても学ぶ。	1 後期	30	1	○			○			○	
○			運動学Ⅲ	作業療法に必要な姿勢、運動、動作の分析、記録方法を学ぶ。	2 前期	30	1	○		△	○			○	
○			人間発達学	リハビリテーションの評価・治療に必要な、人間が生まれてからの各ライフステージにおける人間発達の概要や発達課題について学修する。	1 後期	30	1	○			○			○	
○			病理学	種々の疾病における原因、発症の機序、病気の進展過程、臨床像との関連、転帰、治療などについて、解剖学や細胞組織学の基盤の上に、主に器官・組織・細胞の形態学的変化として総論的に学修する。	2 前期	30	1	○			○			○	
○			臨床心理学	本講義では臨床心理学の様々な理論や技法の学修を通じ、患者と接する時に身につけるべき態度や傾聴などの具体的な技法を学ぶ。	1 後期	30	1	○			○			○	
○			整形外科学	骨、関節、筋腱、靭帯、神経血管系疾患の病態生理、診断、治療法、予後などについて学ぶ。	2 通期	60	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			内科学	内科系疾患の病因や病態、治療や予後ならびに作業療法に深く関わる疾患について学ぶ。	2 通期	60	2	○			○			○		
○			神経内科学	神経内科諸疾患の病因・病態について総合的に学ぶ。特にリハビリテーションの対象となることの多い疾患については、治療、予後等についても学ぶ。	2 通期	60	2	○			○				○	
○			精神医学	精神医学の概要と、個々の精神障害の症状、診断、治療・対応について学び、作業療法士として必要な精神医学の基礎的知識について理解を深める。	2 前期	30	1	○			○				○	
○			小児科学	小児は成長・発達するということを踏まえて、疾病・障害を学ぶ。さらに、成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら理解を深める。	2 前期	30	1	○			○				○	
○			老年医学	老化に伴う生理的変化、運動機能の低下について学ぶ。また、高齢者特有の疾病の種類と特徴を学ぶ。	2 前期	30	1	○			○			○		
○			一般臨床医学	医療従事者として共通の幅広い医学的知識を習得するため、外科、脳外科、泌尿器科、産婦人科、眼科領域の代表的疾患について病態、診断と治療を学ぶ。	2 前期	30	1	○			○				○	
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの定義・目的、対象と手段について学ぶ。さらに、リハビリテーションに関連する基礎知識、専門職、法律等について学ぶ。	1 前期	30	1	○			○			○		
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションの対象となる主な疾患の特徴と障害について学ぶ。また、疾患ごとの基本的なリハビリテーションの展開について学ぶ。	2 前期	30	1	○			○			○		
○			作業療法概論	作業療法の理論的背景や歴史への理解を深め、作業療法の定義、業務、対象、過程について学ぶ。	1 前期	30	1	○			○			○		
○			基礎作業学演習	作業療法で用いる作業活動の道具・技法・特徴および、作業療法的視点を学び、実際に課題を制作する。さらに施設ボランティアなどの活動場面を通して実際に患者・利用者の活動場面に触れ、学びを深める。	1 通期	90	2	○	△		○	△		○		
○			作業分析学演習	作業療法の治療で用いる作業活動の検討に必要な作業分析について学ぶ。また、臨床場面で作業分析を実施するための基礎を学ぶ。	3 通期	45	1	○			○			○		
○			作業療法研究法Ⅰ	作業療法における研究の必要性、研究に関する倫理と管理、文献検索方法を学ぶ。さらに、研究計画書の作成、研究活動を通じて、研究の基礎を学ぶ。	3 後期	30	1	○			○			○		
○			作業療法研究法Ⅱ	研究法に必要な、基礎的統計処理方法を学ぶ。また、担当教員の指導のもとに、論文の作成方法を学ぶ。	4 前期	30	1	○			○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			身体障害作業療法評価学	対象者に応じた作業療法を提供できるように、治療に先立って行われる評価について、その意義と目的および実施方法を学ぶ。	2 前期	60	2	○			○	○			
○			精神障害作業療法評価学	精神科作業療法の基本となる評価方法(情報収集、面接、観察)と作業療法の視点について学ぶ。	2 前期	30	1	○			○	○			
○			発達障害作業療法評価学	発達障害領域における、作業療法評価の過程に必要な知識を学ぶ。	2 前期	30	1	○			○	○			
○			身体障害作業療法評価学演習	対象者に応じた作業療法を提供できるようにするために、治療に先立って行われる各種評価を適切に選択、実施できるように学ぶ。	2 後期	45	1	○	△		○	○			
○			精神障害作業療法評価学演習	精神科作業療法で必要なテストバッテリー、精神科作業療法の基本となる観察の視点と記録・考察の視点について学ぶ。さらに作業の要素について学ぶ。	2 後期	45	1	○			○	○			
○			発達障害作業療法評価学演習	発達障害領域における、評価過程に必要な知識と、発達検査の目的や特性を把握し、適切に選択、実施できるよう学ぶ。	2 後期	45	1	○			○	○			
○			身体障害作業治療学Ⅰ	対象者に応じた身体機能作業療法が実施できるように、作業療法過程の一連の流れに関する枠組みと治療原理について学ぶ。	2 後期	30	1	○			○	○			
○			身体障害作業治療学Ⅱ	中枢神経障害の対象者に作業療法を実施するために、それぞれの疾患の病態を理解し、作業療法過程に沿った臨床的思考・治療方法を学ぶ。	3 前期	60	2	○			○	○			
○			身体障害作業治療学Ⅲ	整形疾患の対象者に作業療法を実施するために、それぞれの疾患の病態を理解し、作業療法過程に沿った臨床的思考・治療方法を学ぶ。	3 前期	60	2	○			○	○			
○			精神障害作業治療学Ⅰ	精神障害作業療法の基礎となる理念と役割、ならびに精神障害作業療法の一連の過程、地域生活を支える支援方法について学ぶ。さらに、統合失調症、気分障害、神経性障害、薬物関連障害の障害特性および回復過程に沿った治療目的・方法について学ぶ。	3 前期	60	2	○			○	○			
○			精神障害作業治療学Ⅱ	パーソナリティ障害、てんかん、器質性精神障害、知的障害の障害特性および回復過程に沿った治療目的・方法について学ぶ。また、精神科領域における薬物療法について学ぶ。	3 前期	30	1	○			○	○			
○			発達障害作業治療学Ⅰ	肢体不自由児等の臨床像を把握するとともに、作業療法評価から問題点、治療計画の立案までの過程を理解し、治療実施に必要な方法について学ぶ。	3 前期	60	2	○			○	○			
○			発達障害作業治療学Ⅱ	広汎性発達障害等の臨床像を把握するとともに、作業療法評価から問題点、治療計画の立案までの過程を理解し、治療実施に必要な方法について学ぶ。	3 前期	30	1	○			○	○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			身体障害作業治療学演習	身体障害領域における事例検討を通じて、障害特性に基づいた評価・治療計画立案・実施方法を学ぶ。	3 後期	45	1	○			○		○		
○			精神障害作業治療学演習	精神疾患の事例検討を通じて、障害特性に基づいた評価・治療プログラム立案・実施方法を学ぶ。	3 後期	45	1	○			○		○		
○			発達障害作業治療学演習	保育実習を通じて、乳幼児における定型発達の実態を体験する。また、その経験を関連付けながら、発達障害作業療法における一連の過程について事例検討を通じて学ぶ。	3 後期	45	1	△	○	△	○	○			
○			老年期作業治療学	高齢者が抱える身体的・精神的特徴を捉え、アセスメントや対応方法について学ぶ。	3 前期	60	2	○			○		○		
○			義肢装具学	切断の病態について理解し、適切な評価、治療について学ぶ。各種切断と義手・義足及び装具の知識と適切なチェックアウト方法を学ぶ。スプリントの作製に関する知識・技術を学ぶ。	3 前期	30	1	○			○		○		
○			日常生活技術学Ⅰ	日常生活活動(ADL)の概念や評価方法について学ぶ。また、ADLを観察することで、正常な運動・動作の特徴を知り、主たる疾患ごとの支援の必要性について理解する。	2 後期	60	2	○		△	○		○		
○			日常生活技術学Ⅱ	主たる疾患の日常生活活動(ADL)に対して、具体的な支援方法を学ぶ。	3 前期	30	1	○		△	○		○		
○			地域作業療法Ⅰ	地域医療・リハビリテーションの成り立ちと概要および制度を理解し、その中で連携の大切さや支援方法、住環境整備における基礎知識について学ぶ。	2 後期	30	1	○			○		○		
○			地域作業療法Ⅱ	地域作業療法を理解した上で、地域における作業療法の実践について学ぶ。	3 前期	30	1	○			○		○	○	
○			職業余暇活動技術学	障害者の就労について理解し、作業療法における支援やとらえ方について学ぶ。	3 前期	30	1	○			○		○		
○			生活機器・環境学	福祉用具の基礎知識と機器を中心とした環境設定によるアプローチの在り方を通じて、作業療法の生活支援について学ぶ。	2 後期	30	1	○	△		○		○		
○			臨床見学実習	身体障害・精神障害領域の施設を見学することで臨床における作業療法士の業務・役割を理解する。また、医療人としての行動・態度について学ぶ。	1 前期	45	1		△	○	△	○	○		○
○			評価実習(検査・測定)	臨床実習施設での実習を通じて、作業療法評価の一手技である(検査・測定)を対象者に適切に行う。また、医療人としての責任、自主性を学ぶ。	2 後期	45	1		△	○	△	○	○		○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			評価実習	臨床実習施設において、作業療法士の指導・監督のもと作業療法評価の一連のプロセスを実践し、目標設定、作業療法プログラムの立案を行う。	3 後期	315	7	△	○	△	○	○			○
○			治療実習 I	臨床実習施設において、作業療法士の指導・監督のもと作業療法評価ならびに治療を実施する。さらに、対象者の変化に応じて再評価を行い、治療の効果判定ならびに治療プログラムの修正を実施する。	4 前期	405	9	△	○	△	○	○			○
○			治療実習 II	臨床実習施設において、作業療法士の指導・監督のもと作業療法評価ならびに治療を実施する。さらに、対象者の変化に応じて再評価を行い、治療の効果判定ならびに治療プログラムの修正を実施する。	4 後期	405	9	△	○	△	○	○			○
合計			64 科目		3645単位時間( 107単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(1)卒業試験に合格していること (2)在学期間が4年以上8年以内であること (3)卒業期までに授業料等を全額納入していること 卒業試験の受験資格は、教育課程の全教科について合格した者とする	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
企業等で必要とされる知識、技術、姿勢を十分に把握し、企業等の要請を受けるべく実践的かつ専門的な教育になるようにする。  
特に実践的教育の場である実習先との事前、実習中、事後の指導者会議、ヒアリングアンケート等を実施し、教育課程編成委員会において活用するよう取り組む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成等における意思決定機関である教務委員会において教育課程編成委員会の審議内容、意見等を協議事項として検討し、以後の教育課程の編成、通常授業等に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
渡辺貴之	笠原整形外科 理学療法士	平成29年11月22日～ 令和元年11月21日(2年)	③
西堀陽輔	山形徳洲会病院 作業療法士	平成29年11月22日～ 令和元年11月21日(2年)	②
奥山哲	Body care salon mizizi 代表 理学療法士	平成29年11月22日～ 令和元年11月21日(2年)	③
梶原賢	山形医療技術専門学校 校長		
杉原敏道	山形医療技術専門学校 教育部長		
長沼誠	山形医療技術専門学校 理学療法学科長		
鈴木竜平	山形医療技術専門学校 作業療法学科長		
武田貴好	山形医療技術専門学校 教務課長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数)

年2回開催 5月、11月(予定)

(開催日時)

令和元年度第1回 令和元年5月24日13:00～14:30(開催済)

令和元年度第2回 令和元年11月22日(開催予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ①令和2年に指定規則改正に伴うカリキュラムの改正を検討していることからカリキュラム作成の基本方針、履修方法等について意見、要望を受けた。地域包括ケアシステムにより地域で活躍する作業療法士が増えている現状から講義に組み入れてほしいとの要望を受け、地域包括ケア実習を中心とした地域包括ケアに関する科目を立ち上げることにした。
- ②専門科目は当然重要であるが基礎科目において、体の構造や病態などについて十分理解していないと応用がきかないのではないかと意見が出され、通常の授業の教授方法の検討や理解不足の学生に対する補講等を実施することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

厚労省の定める臨床実習施設の要件にあった病院・施設で実習を行う（承認を受けた病院・施設）。各学年の学習進捗状況に合わせ見学実習、評価実習、治療実習を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習前に実習指導者会議を開催し、実習の目的・成績評価・学内での授業の進行度等について説明している。また、実習学生との面談も実施している。実習指導者会議に欠席した実習指導者に対しては、担任教員が中心となって会議の議事録とともに実習に関する資料を送付し、電話連絡を行う。

実習中は専任教員による電話連絡と専任教員による実習訪問を実施している。

実習後は学内セミナーでの発表を各学生に課し、実習前のプレテスト、実習指導者の評価、セミナーの成績を合わせて総合評価とし、担任教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床見学実習	1. 実習を通じて、学生自身で作業療法士のイメージを構築する 2. 病院・施設等における作業療法士の役割と治療者としての資質について理解する 3. 学生自身が得た作業療法士のイメージを表現（レポート）してまとめる 以上を目的として、県内の病院・福祉施設において担当作業療法士の指導の下、実習を行う。	病院・介護老人保健施設・福祉施設等
評価実習（検査・測定）	1. 実習を通じて、対象者に対して検査・測定を正確に実施する 以上を目的として、県内の病院・福祉施設において担当作業療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック等医療機関
評価実習	実習を通じて、学生が対象者の全体像を把握する 2. 対象者の問題点とその優先順位を考慮して作業療法目標を設定する 3. 実習指導者の下で治療計画を経験し、治療構造や治療手段への理解を深める 以上を目的として、県内の病院・福祉施設において担当作業療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック等医療機関
治療実習Ⅰ・Ⅱ	1. 最終実習として、作業療法士としての資質を再確認する 2. 対象者の生活を基本とした中での作業療法の流れに沿った一連の過程を理解する 3. 再評価をすることで実施した作業療法プログラムの効果判定と修正を行う 以上を目的として、県内の病院・福祉施設において担当作業療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック等医療機関

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

山形医療技術専門学校研修規程に則り、病院クリニック、介護老人保健施設等における臨床研修を実施すると共に、関連職能団体の主催する学会、研修会、症例検討会への参加し、教員としての資質の向上、最新の知識技術を授業に取り入れる。また、指導力向上のために研修会等に参加すると共に授業評価を積極的に活用する。年度当初に研修計画を作成、実施することとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名	実施月	参加人数	連携企業等	内容
大学院進学	通年	4名	山形県立保健医療大学	講義や研究を通じ、専攻分野に関する見識を深め、教育に反映する。
山形県作業療法学会	5月27日	6名	県作業療法士会	学会発表や特別講演を通じて見識を深め教育に反映する。
東北作業療法学会	6月23日	1名	東北作業療法学会 実行委員会	学会発表や特別講演を通じて見識を深め教育に反映する。
日本作業療法学会	9月9日	1名	日本作業療法士協会	学会発表や特別講演を通じて見識を深め教育に反映する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名	実施月	参加人数	連携企業等	内容
学生の授業評価の実施	前期、後期	6名	—	授業評価の結果を分析し、今後の授業に向けた改善を行なう。
教員間の授業見学、意見交換会	通年	6名	—	教員間で授業の見学等を行ない、教授方法などについての意見交換を行なう
全国リハビリテーション学校協会教員研修会東北ブロック会	10月28日	1名	東北地区の養成校	他の養成校の専任教員との情報交換やディスカッションを通じ、授業の内容や方法等について取り入れる

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名	実施月	参加人数	連携企業等	内容
山形県作業療法学会	5月	7名	県作業療法士会	学会発表や特別講演を通じて見識を深め教育に反映する。
東北作業療法学会	6月	7名	東北作業療法学会実行委員会	学会発表や特別講演を通じて見識を深め教育に反映する。
大学院進学	通年	4名	山形県立保健医療大学	講義や研究を通じ、専攻分野に関する見識を深め、教育に反映する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名	実施月	参加人数	連携企業等	内容
学生の授業評価の実施	前期、後期	6名	—	授業評価の結果を分析し、今後の授業に向けた改善を行なう。
教員間の授業見学、意見交換会	通年	6名	—	教員間で授業の見学等を行ない教授方法などについての意見交換を行なう
全国リハビリテーション学校協会教員研修会東北ブロック会	10月	1名	東北地区の養成校	他の養成校の専任教員との情報交換やディスカッションを通じ、授業の内容や方法等について取り入れる

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校運営の状況について自己評価を行い、その結果や改善方法を開示し、評価することにより、自己評価の客観性、透明性を高める。

学校関係者が学校の現状や課題について共通理解を持って連携協力することにより学校運営の一層の充実をめざす。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・教育目標・人材育成等
(2) 学校運営	運営方針、組織・人事給与等諸規程・コンプライアンス体制の整備等
(3) 教育活動	教育課程の編成・カリキュラム・授業評価・指導体制等
(4) 学修成果	就職率・資格取得率・退学率等
(5) 学生支援	就職支援体制・生活支援・課外活動等
(6) 教育環境	施設設備の整備体制・実習施設・防災体制
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動・学納金の状況
(8) 財務	財政基盤・予算収支計画・会計監査等
(9) 法令等の遵守	法令、基準等の遵守・自己評価体制、公開等
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・ボランティア体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

臨床実習対策を充実させてほしいとの意見を受け、普段の授業から臨床実習を意識した授業を展開するようにした。また、コミュニケーション能力の向上や社会性を身につけるための工夫を行なった。レポート提出ができない等については、学力不足、文書作成能力に問題があると考えられるので基礎学力の底上げをはかることとした。最近の学生は、おとなしい学生が比較的多いので自己表現力が向上するような取り組みをおこなって欲しいとの意見が出され特別講義などに取り入れることとした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
菊地和博	東北文教大学短期大学部特任教授	平成29年11月22日～令和元年11月21日(2年)	有識者

飯塚力	サンワ機器代表取締役	平成29年11月22日～令和元年11月21日(2年)	地域住民
早坂奈緒子	篠田総合病院 理学療法士	平成29年11月22日～令和元年11月21日(2年)	卒業生
沼沢和宏	至誠堂総合病院 作業療法士	平成29年11月22日～令和元年11月21日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 毎年7月末日までに公表  
URL :<http://www.ymisn.ac.jp/jyoho.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

関係業界に対し、教育の特色や指導方針、カリキュラム編成、就職率、国家試験合格率、学校評価の結果などを詳細に情報提供する。提供する情報は、常に最新の情報となるよう随時更新する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育理念、教育目標、特色、所在地等基本情報
(2)各学科等の教育	定員、教育内容、カリキュラム、国家試験合格率、就職状況
(3)教職員	教員組織、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学内実技実習の状況、臨床実習の概要
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、ボランティア活動
(6)学生の生活支援	学校生活の状況、スクールバスの運行状況等
(7)学生納付金・修学支援	授業料等納付金の詳細、日本学生支援機構奨学金の概要
(8)学校の財務	資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書
(9)学校評価	自己点検、学校関係者評価報告書

(3)情報提供方法

ホームページ並びにパンフレットによる情報提供 URL: <http://www.ymisn.ac.jp/>